

施策番号	441	施策名	消防の推進	令和5年度主管課名	くらし安全課
総合計画 体系	政策名	4	快適な生活環境の里づくり	令和5年度課長名	松本 博巳
	関係課名			シート作成者	大山 博聖

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町民	→	ア 人口	人		見込値			11,627	11,455	11,280
					実績値	12,497	12,358	12,116		
イ 消防団員	→	イ 消防団員数	人		見込値			800	800	800
					実績値	766	756	737		
ウ	→	ウ			見込値					
					実績値					
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 迅速的確に救助救護される	→	ア 火災発生件数	件		目標値	5	5	5	5	5
					実績値	10	12	5		
					達成率	50.0%	41.7%	100.0%	100.0%	100.0%
イ 火災から生命、財産を守る	→	イ 出動回数	回		目標値	8	8	8	8	8
					実績値	12	14	5		
					達成率	66.7%	57.1%	160.0%	160.0%	160.0%
ウ	→	ウ 出動人員	人		目標値	260	260	260	260	260
					実績値	419	588	334		
					達成率	62.1%	44.2%	77.8%	77.8%	77.8%
エ	→	エ 消防団の定数に対する充足率	%		目標値	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0
					実績値	85.1	94.5	92.2		
					達成率	99.0%	109.9%	107.2%	107.2%	107.2%
⑤ 成果指標 設定の考え方		住民の身体、生命及び財産を守るため、火災等の災害発生を予防活動により減らすことを目的とし、火災発生件数、出動回数・出動人員を成果指標とした。また、減少傾向にある消防団員の確保が重要であるため、消防団員の定数に対する充足率を成果指標とした。				⑥ 成果指標の 把握方法と 算定式等				
					火災発生件数・出動回数・出動人員については、くらし安全課において、年間の集計を行う。また、消防団員の定数に対する充足率は、4月1日現在の定数、団員数により算出する。令和4年4月から条例定数を100人減員し、800人としたことから充足率は一時的に上がったものの減少に転じている。					

2. 施策の役割分担

施策成果向上 に向けた 住民と行政との 役割分担	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
	・町民は、自己の身体、生命及び財産を守るため、自主防災への取組を行う。 ・消防団は、消防団員の資質向上を目指し各種研修・訓練へ参加する。 ・消防団は、施設・設備・資機材の適切な管理を行い災害時の出動に備える。	・必要な施設・設備、資機材の整備を進めるとともに、消防団員の確保に努める。 ・町民の火災予防に関する意識の啓発や自主防災組織への支援を行う。 ・消防団員の活動に関して、消防団・各分団・各部への支援を行う。

3. 評価結果

5 年度 の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景・要因	
	① 施策の目標達成度(目標値を達成したか、未達成か? その要因は?)	
	火災発件数等、出動回数、消防団の定数に対する充足率は、いずれの目標値も達成出来た。要因としては、火災件数については、火災予防の啓発活動を行っており、徹底出来たものと思われる。出動回数については、火災発件数が減少したことから、出動回数も抑えられた。消防団員の定数に対する充足率については、令和4年4月に条例改正を行い、定数を100人減の800人としたことから達成できている。	☒ 目標値を上回る ☐ 目標値どおり ☐ 目標値を下回る
	② 成果指標の時系列比較(成果は向上したか? 低下したか? 要因は?)	
	令和5年度の火災件数は、5件(建物火災2件、その他火災3件)で、前年度と比較して7件減少した。目標の件数どおりに抑える事が出来たが、引き続き防火意識に対する啓発が必要である。また、温暖化に伴う局地的な集中豪雨が多発するなど自然災害が多様化・激甚化しており、特に出水期や台風に警戒が必要であることから、消防団員の出動回数は増加傾向にある。	☒ 向上した ☐ ほとんど変わらない ☐ 低下した
	③ 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)	
	人口が同規模の美咲町と比べれば、火災件数(令和5年 鏡野町5件、美咲町13件)・出動回数・出動人員については、比較的少なく抑えられているが、増加や減少の繰り返しとなっている。消防団員の定数に対する充足率は、令和4年4月に条例改正を行ったことから数値としては上がっている。	☒ 高い水準 ☐ ほぼ同水準 ☐ 低い水準
	2. 施策を取り巻く環境変化(対象の変化、国県の動向、法改正等)と住民からの意見・要望など	
	全国的に消防団員数の減少、災害の多様化・激甚化により、消防団員の負担が増加していることを踏まえて、消防団員を確保することを目的として、消防団員の適切な処遇のあり方を検討するよう消防庁長官通知(令和3年4月13日)。	
	3. 施策の振り返りと総括 (5年度の事務事業や取組の成果は? うまくいかなかった取組・問題点と原因は?)	
	① 施策の成果向上につながった主な事務事業	非常備消防経常管理費
	② 施策の成果向上のため改善を要する主な事務事業	分団運営費補助金
	③ 施策全体の振り返りと総括	
	火災発件数を減少させるため、火災予防活動や広報等を行っていることで、火災件数や出動回数は減少しており、施策の成果が現れている。また、消防団員の確保のため、消防団員の適切な処遇のあり方を検討しているが結論には至っていない。	
	4. 施策の今後の課題と改革改善の方向(今後、新たに取り組むべきこと、さらに力をいれる必要があることは?)	
	① 今後施策の成果向上につなげる主な事務事業	非常備消防経常管理費
	② 施策全体の今後の課題と改革改善の方向	
	火災発件数を減少させるため、巡回広報やSNS等を利用し、火災の発生しやすい時期、時間等を考慮し、住民に伝わりやすい方法で火災予防の活動を継続して行う必要がある。林野火災が発生すると住宅火災と比較して出動人員は増加するため、目標設定について見直しをする必要がある。また、消防活動推進のため、消防団の装備品の充実強化が必要であり、今後も計画的に整備を進める。消防団員の適切な処遇のあり方については、まだ検討の余地があるので、今後も検討していく。	